



企画展示 「紙を愛した男・関 義城」によせて

文学部文化財学科 教授 魚 島 純 一

CROSS OVER

今回のテーマは、本来の専門からは少し外れた「紙」に関すること。まず関義城（せきよしくに）について調べるところから始まったことは言うまでもない。調べはじめると、彼の偉大さ、紙に対する愛情の強さが門外漢の私にもひしひしと伝わってきた。これをなんとかまったく関心のない人たちにも伝えたい。そこで考えついたのが今回の企画展示のタイトルである。奈良大学図書館の展示タイトルとしてはふさわしくないとお叱りを受けるかもしれないとは思ったが、思い切って「紙 LOVE」の関に焦点を当てたタイトルにしてみた。

奈良大学図書館では、昨年度の特別集書で『THE HANDMADE PAPERS OF JAPAN』（1952年、『日本の手漉紙』）と『古今東亜紙譜』（1957年）を入手することができた。

前者は、太平洋戦争後、進駐軍として来日していたトーマス・キース・ティンダルが和紙の美しさに魅せられ、世界に向けて紹介するために企画したもので、関義城の和紙に関する知識とコレクションを知り、ともに取り組んだが完成を待たずアメリカに帰国したため、関自身が一人で完成させたものである。限定250部作られたが、当初の目的が世界に向けての発信であったためその多くが海外の著名大学に入り、国内に残ったのはわずか30部ほどだったという。このことを憂いた関は同じようなコレクションを貼り込んだ『古今和紙譜』（1954年）と『古今東亜紙譜』（1957年）をそれぞれ限定100部発行した。その後発行された『古今色紙之譜』（1963年）と併せて関義城コレクションが貼り込まれた四部作となる。今回すでに収蔵されていた『古今和紙譜』と『古今色紙之譜』とをあわせて、この四部作がそろったことになる。

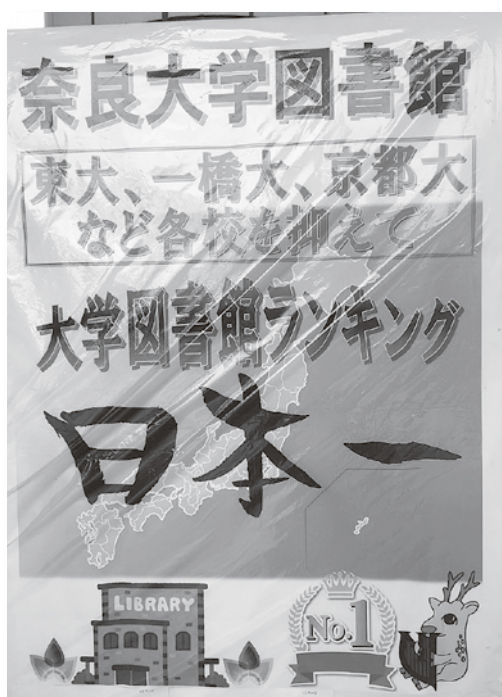
それぞれの内容には、今では入手が困難な紙やすでに作られていない紙などもみられ、なかでも百万塔の中に納められた世界最古の印刷物としても知られる百万塔陀羅尼経の実物が貼り込まれているなど、大切なコレクションを切り貼りしてでも和紙の魅力を世界に、そして後世に伝えようとした関の熱意が伝わる素晴らしいコレクションである。

紙のことに関心がある人はもちろんのこと、そうでない人でも、何かを後世に伝えることの意味や大切さを感じていただけるのではないかと思います。

この展示をご覧いただき、紙のことをとことん愛した関義城に少しでも興味を持っていただければ幸いです。



大学ランキングの図書館部門で奈良大学図書館が1位になりました！



朝日新聞出版『大学ランキング 2019』の図書館部門で、奈良大学図書館が1位にランクされました。

大学図書館ランキングは、「学生一人あたりの蔵書冊数、受入冊数、貸出冊数、図書館費」それぞれについて最大の数値をもとに指数化し、その合計で順位を決定しています。この中でも特に「学生一人あたりの受入冊数」の指数が大きく寄与しました。

2014年に日本考古学協会からの資料寄贈が決まり、爾後、毎年多くの資料を受け入れていて受入総数が大きく伸びていたことで、今回のランクインにつながりました。また、受入だけではなく貸出冊数も伸びており、ここ数年間の図書館活動の成果でもあります。

日本考古学協会からの図書寄贈事業が完了したことで、発掘調査報告書をはじめとする文化財専門書がますます充実しました。ぜひご利用ください。

春の図書館企画展『書物の秘宝』

奈良大学では、本物、現物を重視した教育に力を入れています。そのため、図書館予算に特別集書の枠を設けて毎年貴重資料の購入、受入を行っています。過去に受入された貴重書は、そのたびに企画展示で披露され、研究に使用されて、普段は保存庫に収納しています。

4月13日から約2ヶ月間にわたり、これら貴重書のうち一部を集結させて一挙公開しました。

ゲーテンベルグ印刷 Catholicon 1460頃 ☆インキュナブラ

トマス・アクィナス『任意問答討論集』1471 ☆インキュナブラ

フロイス『2つの新しい日本年報』1598

『欽定訳聖書』1611

ケンペル『日本誌』1727

ジョンソン『英語辞典』初版 1755

ゲーテ『若きウェルテルの悩み』初版 1774

アダム・スミス『国富論』初版 1776

クックの航海記 (1776-1784)

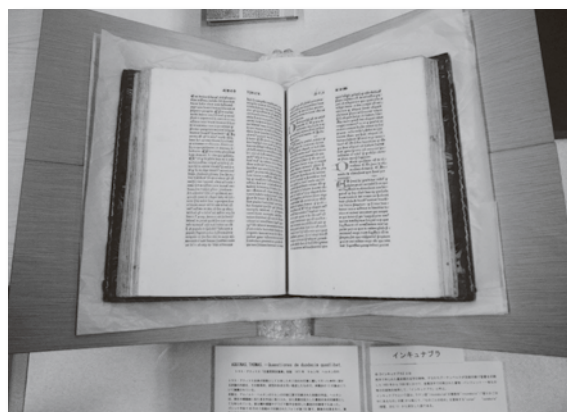
ダーウィン『種の起源』初版 1859

『文正草子』奈良絵本 室町後期

『日本書紀』神代巻1、巻2 1605 (慶長10)

『北越雪譜』(1836-1842)

与謝野晶子『みだれ髪』初版 (1901)



トマス・アクィナス『任意問答討論集』1471年
西洋活版印刷初期の印刷物を「インキュナブラ」と称する。ラテン語で「ゆりかご」の意

小さな展示室ですが、これだけの貴重書が一堂に会する様は壮観です。多くのご来場、反響をいただき、ありがとうございました。

2018 年第 1 回学生選書（平日に開催）



6月7日に2018年第1回の学生選書を実施しました。

今回は初の平日開催として、当日に授業のない6名の学生が参加してくれました。

選書会のあと、図書は7月6日に学生選書コーナーへ配架しました。参加者の作ってくれたPOPが目印です。ぜひ、借りてみて下さいね！

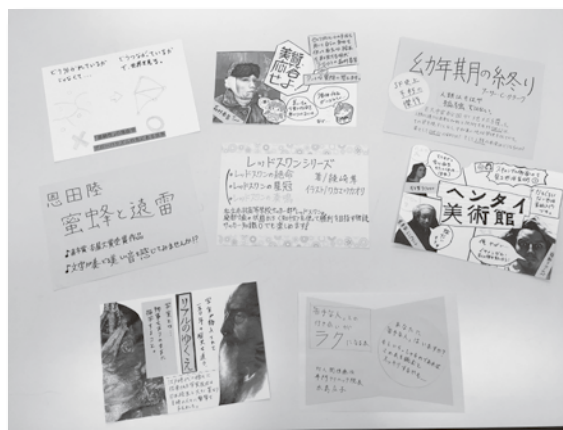
学生選書の貸出上位タイトルを公開！

2017年6月に開始した学生選書。第1回69冊のうち、特に人気のあったタイトルを紹介します。

（タイトル、貸出回数、順位）

恩田陸『蜜蜂と遠雷』	17回	1位
山田五郎他『ヘンタイ美術館』	17回	1位
森村泰昌『美術、応答せよ！』	13回	3位
水島広子『「苦手な人」とのつき合いがラクになる本』	11回	4位
村上春樹『騎士団長殺し第一部』	9回	6位
神永学『怪盗探偵山猫』	9回	6位

☆上位4冊には、POPを書いてくれた本がランクインしました。



第1回のPOP群。このあと、べつの用途での使用も予定。次号で報告します。

多読のススメー2018夏ー



今年もやります、多読のススメ。

6月18日から22日の日程で、西出公之教授と山本尚子准教授が英語多読の方法について案内される「多読のススメー2018夏ー」を開催しました。

昼休みと4時間目終了後を使っの全9回のうち、3回が地震の影響などで中止となりましたが、合計9名の参加者がありました。

シリーズごとの特徴や、本の選び方などについて、熱心に説明して下さいました。

多読図書コーナーには約4,600冊の図書があり、今年度も増強予定です。難易度一覧表や学内の読者が感想を書いた掲示板もあり、参考になります。やさしい内容の本を、なるべく多く。楽しみながら読む。ぜひ継続してみてください。

図書館統計（2018年3月末）

入館者数は、わずかで
すが平成 22 年度以降では
初の上昇に転じました。

多読図書や学生選書、
考古学関係資料の充実、
ミニコーナーの入れ替え
などの取り組みが奏功して、
貸出冊数は大幅に増加（学
生貸出は20%増）しました。

日本考古学協会寄贈資
料の受入が完了し、蔵書
冊数は約 55 万冊になって
います。

年度	平成 28 年度 (2016)	平成 29 年度 (2017)	増減
開館日数	273	275	2
入館者数	89,650	91,167	1,517
図書所蔵数	531,168	549,022	17,854
雑誌タイトル数	6,406	6,413	7
貸出総数	42,368	49,397	7,029
内 学生※	37,343	44,929	7,586
相互協力利用（依頼）	376	283	▲ 93
相互協力利用（受付）	899	647	▲ 252

※ 通信教育部生を含む

図書館展示報告（平成29年度）

図書館展示室では平成 29 年度に下記のテーマで企画展を開催しました。

企画から設営、ポスターやパンフレット作成まで、ご協力いただいた先生方、学生の皆様に
深く感謝いたします。

今後も奈良大学の特色を生かした企画展示を実施してまいります。

回	テーマ	企画	会期
1	漱石と近代の出版 蘇州留学報告	図書館 学生コラボ	2017.6.21 まで
2	古典と向き合う 「一伊勢物語・源氏物語・百人一首の享受世界」	松本大先生 中尾和昇先生	2017.7.7 ～ 9.21
3	宝物絵図 —正倉院宝物・社寺秘蔵宝物を描く—	関根俊一教授	2017.10.25 ～ 11.28
4	「Märchenhaftes Deutschland おとぎの国ドイツ～メルヘン・城・森～」	横山香准教授	2017.12.18 ～ 2018.3.24

ミニ展示

就職応援隊！（5/11～9/21）

カズオ・イシグロ（10/6～1/31）

七夕（6/30～7/9）、夏の風物詩（8/1～8/31）

東野治之名誉教授（11/6～1/19、2/9～）

防災の日特集（9/1～9/22）

バレンタイン（1/19～2/8）

学生コラボ・ゼミ巡検（9/25～11/6）

後 記

遅くなりましたが、図書館報『みささぎ』27号をお届けします。

文化財学科の魚島純一教授には、企画展示にご尽力いただき感謝申し上げます。学生選書に参
加下さった学生の皆さん、力作ぞろいの POP をありがとうございます。

次号は2019年 2 月に発行予定です。

（編集担当）

発行：平成30年9月13日

編集：奈良大学図書館 奈良市山陵町 1 5 0 0